

# 豊岡市における障害者福祉の課題

## 各資料対応表

### (1) まちの移動手段の充実

障害のある人が、積極的に社会参加していくためには、移動手段の充実が欠かせません。そのため、障害の特性にかかわらず、だれもが使いやすい交通手段を確保する必要があります。また、通勤や通学、買い物など、障害のある人の場面に応じた交通手段の充実を図り、外出しやすい環境づくりが求められます。

- ・障害のある人が移動について課題を感じている。(資料1より)
- ・タクシー券が1回につき1枚しか使えないことや、バス停が自宅から遠いなどといった、現在の移動支援サービスなどを障害のある人が利用しやすいように改善することが求められている。(資料1より)
- ・公共交通機関の音声案内や電子掲示板などの情報発信の充実を進めることが求められている。(資料1より)
- ・通学・通園支援として、保護者の出産、病気等、やむを得ない理由がある場合、移動支援サービスの利用など、個別の事情に応じたサービス提供の検討が課題になっている。(資料2より)

### (2) 障害のある人が地域で暮らすための理解の促進

障害のある人の日常生活や社会活動を支えるためには、周囲の理解と協力が欠かせません。家族をはじめ地域の方々に、障害の特性について理解を深める学習や啓発活動を実施する他、障害がある人もない人も、ともに生きる仲間としてお互いが理解し合えるように、相互の交流を深める場を持つこと等が求められています。共生社会の実現をめざして、こうした取り組みの充実を図ることが重要です。

- ・障害のある人が居住している周囲の人の理解が重要である。(資料1より)
- ・様々な場面において細やかな合理的配慮を進めることが求められている。(資料1より)
- ・教育や障害者週間などの機会を充実させ、周囲の理解を深めることが重要である。(資料1より)
- ・アンケート全体の60%前後が差別や嫌な思いを、学校、職場、住んでいる地域、外出先などで経験している。(資料3より)
- ・周囲の誤った理解で、障害のある人が不当な差別を受ける場面がある。(アンケートより)
- ・平成28年度から「障害者差別解消法」がスタート。(国の動向より)

### (3) 人材の確保

障害のある人の多様な状態やニーズを的確に判断し、対応するためには、専門的な知識や経験のある人材の育成が欠かせません。サービス提供事業者の質的な向上を支えるためにも、研修や研修情報の積極的な提供が求められます。また、多様な事業者の参入を促し、適切な競争によるサービスの質的向上と利用者が満足できるサービス環境の向上につながられることも課題となっています。

- ・サービスを必要としている障害のある人が、いつでも利用できる人員体制が求められている。  
(資料1より)
- ・資格やスキルが必要な支援を充実できるように研修や講座を開講することが重要である。  
(資料1より)
- ・次世代が、今後、障害福祉に興味をもってもらえるように、障害に関する教育を充実させることが重要である。(資料1より)
- ・コミュニケーション支援を充実させるためにも、手話通訳者や要約筆記者などの研修の参加者を確保することが重要である。(資料2より)

### (4) 就労の充実

障害のある人が地域で自立した生活を送るためには就労が欠かせません。障害のある人が、障害の特性に応じた働き方ができるような支援が求められます。また、企業側が、障害に対する理解を深め、雇用機会を拡充させていく必要があります。さらに、通勤などの就労に伴う課題に対して総合的に支援していく必要があります。

- ・就労先での研修や会議、昇格試験などに障害のある人が十分に参加できるような環境が求められている。(資料1より)
- ・就労に役立つ資格やスキルの勉強ができる支援が求められている。(資料1より)
- ・障害のある人に対する就労先の理解が重要である。(資料1より)
- ・就労機会の拡充やトライアル雇用を通じて、雇用拡大につながる企業(雇用主)の理解を深めることが重要である。(資料2より)
- ・障害のある人が、就労のためにパソコンやスマートフォンを活用できるようITの利用促進が進んでいない。(資料2より)

## (5) 災害対策と準備

予測できない災害に対して、万全な対策と準備を進める必要があります。少しでも迅速に避難し安全を確保するには、日頃からの意識や声かけが重要となります。障害のある人と行政、関係機関などがそれぞれの役割を持ち、協力して速やかな避難活動を進めることが求められます。

- ・災害が起きた後に、障害のある人やその家族が避難生活の情報などを収集できるような体制が求められている。(資料1より)
- ・災害に対して、障害のある人の避難方法や避難経路を関係機関や家族、支援者などで共有することが重要である。(資料1より)
- ・災害時に福祉避難所開設の迅速な対応が取れるように、災害物資の備蓄や防災訓練などをおり、今後も、福祉避難所の増加を図っていく。(資料2より)
- ・災害時に一人で避難できない人が多い。(資料3より)

## (6) 居場所づくり・絆づくり

障害のある人が、いつまでもいきいきと暮らしていくためには、出会いや良好な人間関係を提供する場が重要です。そこに行けば、顔見知りがいいて、情報の交換や悩みを打ち明け合うような仕組みをつくり、課題の早期発見や早期解決できるような地域づくりの支援が必要となります。

- ・スポーツ大会やサロンなど、障害のある人が、社会参加できる環境づくりが求められている。(資料1より)
- ・これまでに、社会参加していない障害のある人に参加してもらうことが重要である。(資料1より)
- ・障害のある人やその家族の近くに、気軽に話や相談ができる場をつくることが求められている。(資料1より)
- ・障害の特性に合わせて、地域イベントなどの社会参加をしてもらえる情報の発信を充実させることが重要である。(資料1より)
- ・新しいコミュニティの設置(地域福祉計画とリンク)